

● OCC50周年が読売新聞に掲載されました。

記事に掲載されたウェブは右記のQR
・<http://manapi-world.org/50th/>にて
ご覧いただけます！



THE YOMIURI SHIMBUN

読売新聞

2019年(平成31年)

1月23日 水曜日

言論 堂 余斤 門

著名人らによる公開講座や国際交流などを行うNPO法人「国際生涯学習文化センター」(大阪市中央区)が、昨年で活動を始めて50年となり、半世紀の歩みをウェブサイトにまとめた。過去に講師を務めた人々からは、「国際問題からビール片手の囲碁まで(活動の)多様さに感心する」(落語家・笑福亭仁鶴さん)といった激励が寄せられ、センターは「今後、も意義ある活動を」と意気込んでいる。(中西賢司)

国際生涯学習文化センターは1968年10月、大阪市民大学センターとして発足。2000年にNPO法人化し、今の名称になった。学園紛争で授業が危ぶまれる中、学生らが「先生をキャンパスの外へ引っ張り出そう」と市民大学の自主運営を企画したのがきっかけ。国際政治学者の高坂正堯さんらが講師を引き受け、「本物の教養を求める人たちに学びの場を」と、希望者に時事問題や歴史、哲学、宗教などの講座を行ってきた。目を引くのが多彩な講師陣だ。これまでに行った約1200回の講義では、大学教授や評論家らに加え、

国際生涯学習文化センター 市民の学び 支え50年

講師ら 足跡サイトで激励

六輔さん、映画監督の大島渚さん、プロ野球の星野仙一さん、作家の沢木耕太郎さん、椎名誠さん、落合信彦さんら、そうそうたる顔ぶれが登場してきた。サイトでは、活動を紹介し、講師陣らのメッセージも掲載した。ジャーナリストの田原総一朗さんは、センターが毎月、外国人に各国の事情を語ってもらう「多文化交流サロン」を行っていることを踏まえ、「各サイトでは、活動を紹介します。さわか福祉財団会長で弁護士堀田力さんは、会



センターが週2日開く英会話教室は1978年に開講。国際理解の場を地道に提供している(大阪市中央区)



①1996年に講演した永さん
②77年に「最近の国際情勢」と題して講義を行った高坂さん。多彩な講師陣が登場した。いずれも提供



員の講義の受講料が1500円(一般当日3000円)であることから、「(インターネットで)情報がタダで得られる時代。定食2人分のお金を払ってでも聞きたい講演テーマと講師を探すなんて至難の業。でもそれを続けてきた。個人的ですが、最高位の文化勲章を差し上げたい」と記した。センターでは講義、サロン以外にも囲碁を楽しむ会や英会話教室も開くが、事務局スタッフは4人のみで、ボランティアの支援を受けて切り盛りする。財源の柱は個人会員の年会費と講座などのイベント参加費。講師陣は受講者のリクエストなどから事務局が人選し、ボランティアに近い費用で依頼することもあるという。スタッフの斎藤信子さんは「財源に限られる中、今後も国際情勢から文化、生活に至るまで、誰もがいつでも気軽に学べる場を提供していきたい」と話している。26日には国際政治ジャーナリスト、日高義樹さんが講演を行う。問い合わせはセンター(06・6764・1282)へ。